

協働的な指導体制の確立と検証

釧路市立清明小学校
学級数 17
(校長 高橋 知毅)

I はじめに

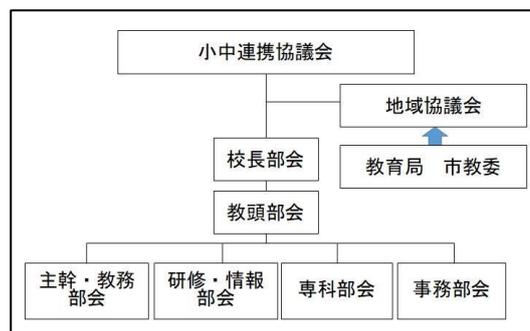
本校は、令和2年度の試行を経て、令和3年度から『学校力向上に関する総合実践事業（地域連携）』の中核校として、校区内の小学校3校、中学校1校との連携を図り、「カリキュラム・マネジメントの充実」と「働き方改革の推進」の2つの柱を重点に中学校区の教職員の連携・協働による包括的な学校改善を推進している。

校長のリーダーシップの下、チームとしての協働意識を高め、保護者や地域と連携・協働する学校づくりを目指しており、今年度は、更なる教育の質の向上に向け「一人一人の児童を全員で育てる」を取組の中心に据えて4校で協議を重ね取組を進めている。

II 実践の概要

1 中学校区における組織体制の確立

近隣4校による学校力向上の取組を推進するため、既存の小中連携協議会を活用し、年間4回の地域連携協議会を含め、管理職部会の他、実務担当の教職員の部会を設置し、定期的に取り組を進めている。各校の協議会資料は、4校が同じ観点で実践を共有・検証できるよう形式を揃えるなど、日常的に実務レベルで担当者間での連携が図られるよう工夫し、取組の進捗状況や今後の方向性を確認している。



【組織の構成】

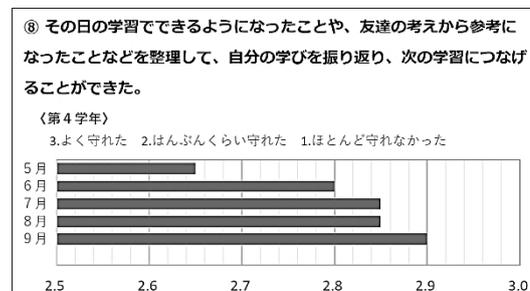
2 カリキュラム・マネジメントの充実に向けた取組の検証

(1) 学校評価による検証

学校力向上に向けた共通実践の重点については、4校の学校評価の項目に位置付け、年間2回の評価を行い検証することとしている。

(2) 児童による検証～「学習の約束」の取組

教員の授業改善の視点や学習規律など、教職員が共理解のもと、組織的に進める基本的な取組について、各校の児童の実態や教職員の状況に応じて設定し、取組を進めている。本校では、研修・情報部と教務部が連携し、「そろえる指導」として「清明小スタンダード」を設定している。毎月末には「学習の約束」として、授業改善の視点を見学から評価し、授業改善の指標として活用している。



【学習の約束に係る児童の評価の変容】

(3) 小小、小中が連携した取組と検証

① 小中合同研修会の実施

近隣4校で部会を構成し、各部会で交流している。7月7日には、本校を会場に4校の教職員が集まり、本校教員の授業動画をもとに、全8部会において、ICTを活用した授業改善の方法等について研修を行った。



【研修後の教職員の声】

- ・タブレットが導入され、授業の中での活用場面を実際に見ることができてよかった。
- ・学内だけでなく有効な情報はほとんど共有できればよいと思った。
- ・普段聞けない中学校の先生の話や学校の様子を聞くことができて参考になった。

② 教科専科指導の取組の推進

本校の外国語専科教員が小学校3校、中学校1校を兼務し外国語の専科指導を行っている。外国語通信の発行や中学校区での「CAN-DOリスト」の作成、小中での外国語教員による相互乗り入れ授業の実施などにより、各校の教職員の授業改善への意識が確実に高まっている。他に体育科の専科指導、高学年の担任による交換授業などの取組を進めている。

	聞くこと	読むこと	話すこと（やりとり）	話すこと（発表）	書くこと
5年	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりはっきりと話された英語を聴き取って、身近で簡単な事柄について、イラストや写真、絵などと一緒に必要な情報を聞き取ることができる。 日常生活に関する身近で簡単な事柄について話された短い話や説明を、抵抗感なく聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活字で書かれた文字の形の違いを識別し、文字を見てその名称を発音することができる。 音声中十分に慣れ親しんだ簡単な単語や、基本的な文脈の意味を、イラストや写真などと結びつけて読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な単語や基本的な表現を用いて、初対面の人に指示・依頼をしたり、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の意思や考えや気持ちを伝えたりすることができる。 自分や相手のことについて、簡単な話や学習してきた表現を用いて、その場で質問したり答えたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に伝えようとする内容を整理すれば、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを交えながら簡単な話や基本的な表現を用いて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットの大小文字と小文字を書き分けることができる。 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考にしながら、その中の一部の語を自分が表現したい内容のものに置き換えて文章を書くことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ゆっくりはっきりと話された英語を聴いて、身近で簡単な事柄について、イラストや写真などと結びつけて必要な情報を聞き取ることができ 	<ul style="list-style-type: none"> 音声中十分に慣れ親しんだ簡単な単語や、基本的な表現の意味を、イラストや写真などと結びつけて読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な単語や基本的な表現を用いて、初対面の人に指示・依頼をしたり、日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に伝えようとする内容を整理すれば、身近で簡単な事柄について整理された内容を、自分の 	<ul style="list-style-type: none"> 語順を意識しながら、語と語の区切りに注意して、音声中十分に慣れ親しんだ簡単な単語や基本的

【青陵中学校区小学校CAN-DOリスト（9/2暫定版）（一部抜粋）】

③ 近隣校と連携したキャリア教育（キャリアカフェ）の取組
中学校区内の小規模校と本校で、6年生の総合的な学習において活動計画を共有し、キャリア教育の取組の一環として活動を構想し試行実施した。

10月に本校を会場にして、合同のキャリアカフェを開催した。会場には保護者や地域の方を講師として招き、両校の児童が様々な職業の話の聞いた、質問したりすることで職業観を深めることができた。



The Seimei Times

No.2 TUESDAY, MAY 28, 2021

右の写真は、武北小学校5年生の授業風景のものです。目を奪い取りたいという子供達の姿が見られますが、決して授業を放棄しているわけではなく「楽し」い。これは、授業の導入で取り入れている「Let's sing」と「Let's chant」の活動場面です。毎時間、華元で出てくる表現の練習と、英語学習の準備時間を自らで取っています。即ち即ちの場にははやくのスピードで書き取らなければならないが、回数を重ねることで子供達は勝手に吸収。この日は「単語のスピードを学習して取りたい」というリクエストが、デジタルブックの仕様で書き取ることができなかったため、「チャレンジしてみよう」という意図を込めて、より良い授業に努力した結果が表れた1時間でした。

授業の終了の時には、「チャレンジ」ということで、6年生全員の前でスピーチを行う予定です。3名の子が立候補し、声色や目線、身振り手振りなどを工夫した「心のこもった発表」を披露してくれました。大勢の前で発表と発表者の姿が学校にカッコよかったです！Nice Challenge!!

HEARTWARMING SCENE AT MUSA

NICE CHALLENGE!! AT KOHAN

青陵中学校の一年生は、英語の導入の時期にいつも単語テストを行っています。（ワークで学んだ範囲が出題されます。）単語テストで書くという作業には、はじめは苦戦していた子も多かったのですが、回数重ねることによってみんな単語を書けるようになってきました！単語の学習内容も増える中、自分たちの学習方法を見つけ、中学年以上レベルアップした子が増えた証拠だと思っています。意味のわかる単語が増えたら、学習もさらに英語を学ぶことが楽しくなっていくはず！音声や動画、映画、外国の方との交流など、自分のチャレンジできる範囲でどんどん英語を使っていてほしいな、と思っています。

Level Up! Seiryu J.H.S

【外国語通信（一部抜粋）】

【講師によるアンケート】

- 子どもたちの質問をする積極的な姿はとても素晴らしかったです。講師側もとても楽しめたと思います。

【児童によるアンケート】

- いろいろな職業の人に質問することは、貴重な体験だったと思います。この体験を将来にいかしていきたいと思いました。

3 働き方改革の取組と検証

本校では、加配事務職員を中心に「働き方改革のコアチーム」を設置し、学校ホームページや4校の事務部会で取組を提案、実践、検証を促している。

(1) 情報共有システムの構築

各校では教職員への連絡や共通理解が必要な確認事項等に、ICTを活用した取組を位置付けている。本校では、Googleドライブを活用し各教職員が掲示板への書き込みの他、ファイルの閲覧など、出勤直後と児童下校後の1日2回、必ず確認するようにしている。各種会議や打合せの時間の軽減により児童と向き合う時間の確保につながっている。

(2) 教職員の業務改善への意識を高める取組の推進

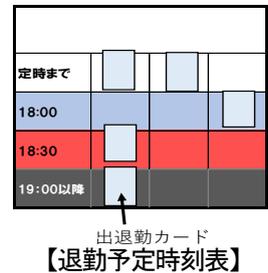
本校では、出退勤システムで使用している出退勤カードを「退勤予定時刻表」のポケットに入れ、全教職員の目標退勤時刻が見えるようになっている。毎日、全職員が目標時刻を決めることにより、一人一人の勤務時間に対する意識向上につながっている。

(3) 学校事務の効率化を図る取組

学校徴収金の金銭事故防止と業務負担軽減のため、ゆうちょ銀行の「ゆうちょ Biz ダイレクト」を利用し、保護者口座から自動引き落としで集金する取組の準備を進めている。手続きの方法や経過は近隣4校で情報共有し、本校では次年度から利用開始を予定している。

(4) 検証方法の確立

Googleフォームを活用し、校内で改善や削減が必要な業務についてアンケートを定期的実施している。集まったアンケートはコアチームの検討材料とし、業務改善に活用している。



【退勤予定時刻表】

Ⅲ 実践による成果と課題 〈学校評価前期教育活動アンケートの教職員の結果より〉

◇成果

「ICT機器の効果的な活用(肯定的評価 95.8% : そう思う 50%)」、「教職員の個々の良さからの学び(肯定的評価 100% : そう思う 66.7%)」、「業務軽減の取組(肯定的評価 100% : そう思う 84.6%)」については、肯定的評価の「そう思う」「少し思う」のうち、「そう思う」の割合が高い。

◆課題

「児童による自己評価の活用(肯定的評価 91.7% : 少し思う 66.7%)」、「経営参画意識(肯定的評価 100% : 少し思う 57.7%)」については、肯定的評価の「そう思う」「少し思う」のうち、「少し思う」の割合が高い。

教職員アンケートは、各項目とも概ね肯定的評価は高いものの、自己評価カードの取組や経営参画意識において「少し思う」の回答の割合が「そう思う」を上回っていた。今後、職員間で取組を交流・共有したり、業務改善アンケート等により課題を明らかにしたりしながら改善を図っていききたい。